

『哲學研究』目録(創刊号~終戦)

※日付は国立国会図書館に改めた
編纂：山本興(1-129)、藤貫裕(130-237)、本田隆祐(238-345)

Table with 7 columns: 頁号, 学位・投稿, 氏名, 論文題目, 号数, 巻/冊, 発行年月日, 頁数, 備考. It lists the contents of the journal 'Philosophical Studies' from its first issue to the end of the war, including author names like 西田幾多郎, 千原龍成, and article titles such as '現代の哲学' and '精神物理的法則'.

256	文学士	三木 清	批判哲学と歴史哲学	54	519	9.9.1	1920
257	文学士	岩井 勝二郎	精神測定の原理としての誤謬の法則	54	519	9.9.1	1920
258	文学博士	藤井 健治郎	社会科学の性質に関するコソーンの見解	55	5110	9.10.1	1920
259	文学士	三宅 柳一	判断対象の構成に就いて	55	5110	9.10.1	1920
260	文学士	世良 寿男	倫理学の対象としての道徳的価値判断の性質に就いて	55	5110	9.10.1	1920
261	文学博士	西前 一郎	自然の理性化（事前）	55	5110	9.10.1	1920
262	文学博士	永田 庄太郎	近代労働倫理の哲学基礎	56	5111	9.11.1	1920
263	文学博士	松本 隆一	知覚と意識	56	5111	9.11.1	1920
264	文学士	手島 文會	原初階段に於ける比尺の権威論（事前）	56	5111	9.11.1	1920
265	文学士	大塚 義一	アッハの意志論	56	5111	9.11.1	1920
266	文学士	藤部 謙治	カントとシュライエマルツヘル	57	5112	9.12.1	1920
267	マスターオブアーツ	日野 真彦	基督教師の宗教思想	57	5112	9.12.1	1920
268	文学士	手島 文會	原初階段に於ける比尺の権威論（完結）	57	5112	9.12.1	1920
269	文学博士	藤田 康彦	プラトニーの美学（事前）	57	5112	9.12.1	1920
270	文学士	千葉 隆成	意識の程度に就いて	58	611	10.1.1	1921
271	文学博士	吉田 照次	教育の基礎概念としての自我	58	611	10.1.1	1921
272	(記載なし)	村岡 典嗣	古神道に於ける道徳意識とその発達	58	611	10.1.1	1921
273	文学士	黒田 源次	前代の視野闘争の流行の視野闘争に及ぼす影響	58	611	10.1.1	1921
274	医学博士	今村 新吉	善論と悪論（事前）	59	612	10.2.1	1921
275	文学博士	田辺 元	認識主義の問題（事前）	59	612	10.2.1	1921
276	文学士	大塚 義一	意志の本質	59	612	10.2.1	1921
277	文学博士	藤部 謙治	カントとシュライエマルツヘル	59	612	10.2.1	1921
278	文学士	長田 新	パウル・ナトルプ「ペスタロッチの理想主義」(一八九九年)を読む	59	612	10.2.1	1921
279	文学士	伊藤 敏典	ナン・氏の教育論	59	612	10.2.1	1921
280	文学博士	朝永 三十郎	カントの永遠的平和論の争点	60	613	10.3.1	1921
281	文学士	柳崎 茂太郎	児童期に於ける精神発達の特徴に就いて	60	613	10.3.1	1921
282	文学士	長田 新	パウル・ナトルプ「ペスタロッチの理想主義」を読む(完結)	60	613	10.3.1	1921
283	法学博士	左右田 善一郎	合理性対非合理性の問題を通じて見たる『権限概念の哲学』	60	613	10.3.1	1921
284	文学博士	西田 幾多郎	感情の内容と意志の内容	61	614	10.4.1	1921
285	法学博士	左右田 善一郎	合理性対非合理性の問題を通じて見たる『権限概念の哲学』（事前）	61	614	10.4.1	1921
286	文学士	三木 清	歴史的因果律の問題	61	614	10.4.1	1921
287	文学博士	藤田 康彦	プラトニーの美学（事前）	62	615	10.5.1	1921
288	法学博士	左右田 善一郎	合理性対非合理性の問題を通じて見たる『権限概念の哲学』（事前）	62	615	10.5.1	1921
289	文学士	藤原 勘十郎	社会的教育の概念	62	615	10.5.1	1921
290	文学士	久松 義一	教育の論理	62	615	10.5.1	1921
291	文学士	岩井 勝二郎	精神物理学上の二つの問題に就いて	62	615	10.5.1	1921
292	文学博士	西前 一郎	道徳の物質的問題	63	616	10.6.1	1921
293	文学博士	田辺 元	認識主義の問題（事前）	63	616	10.6.1	1921
294	文学士	藤田 康彦	絵画の対象	63	616	10.6.1	1921
295	法学博士	左右田 善一郎	合理性対非合理性の問題を通じて見たる『権限概念の哲学』（完）	63	616	10.6.1	1921
296	文学士	丹羽 正義	漢書と志の歴史	64	617	10.7.1	1921
297	文学士	藤部 謙治	哲学と人生	64	617	10.7.1	1921
298	文学士	成瀬 無極	ハフトマンの神聖主義	64	617	10.7.1	1921
299	文学博士	藤田 康彦	プラトニーの美学（事前）	64	617	10.7.1	1921
300	文学士	髙台 理作	問題対象について	64	617	10.7.1	1921
301	文学士	大塚 義一	思想の心理的研究に就いて	65	618	10.8.1	1921
302	文学士	高橋 俊孝	伊藤仁孝の教育論	65	618	10.8.1	1921
303	文学士	手島 文會	シーク教の過去及び現在	65	618	10.8.1	1921
304	(記載なし)	浜田 与助	理念としての神の実在性	65	618	10.8.1	1921
305	文学博士	西田 幾多郎	真善美の合一	66	619	10.9.1	1921
306	文学士	宮城 信雄	教育の倫理	66	619	10.9.1	1921
307	文学士	宮城 信雄	仏教史上に於ける日本天台宗の意義	66	619	10.9.1	1921
308	文学士	伊藤 敏典	金銭問題に於ける公民科教授	66	619	10.9.1	1921
309	文学士	岡野 留次郎	カントに於ける認識客観性問題	67	610	10.10.1	1921
310	文学博士	藤井 健治郎	労働の論理	67	610	10.10.1	1921
311	文学士	久松 義一	教育の論理	67	610	10.10.1	1921
312	文学士	世良 寿男	シェリングに於ける自由の哲学の発展	67	610	10.10.1	1921
313	文学博士	永田 庄太郎	文化価値体系問題（一）	68	611	10.11.1	1921
314	文学博士	高橋 武次郎	博愛主義と利己主義	68	611	10.11.1	1921
315	文学博士	田辺 元	認識主義の問題（事前）	68	611	10.11.1	1921
316	文学士	藤田 康彦	ミレネ	68	611	10.11.1	1921
317	文学士	岡野 留次郎	カントに於ける認識客観性問題（事前）	69	612	10.12.1	1921
318	文学士	久松 正夫	宗教と形而上学	69	612	10.12.1	1921
319	文学士	岩井 勝二郎	二点間以下に於ける機械変型に就いて	69	612	10.12.1	1921
320	文学士	高田 保男	存在の地獄的論議	70	711	11.1.1	1922
321	文学博士	朝永 三十郎	カントの形而上学を就いて	70	711	11.1.1	1922
322	文学士	三木 清	個性の問題	70	711	11.1.1	1922
323	文学博士	永田 庄太郎	文化価値体系問題（二）	70	711	11.1.1	1922
324	文学士	岡野 留次郎	カントに於ける認識客観性問題（事前）	71	712	11.2.1	1922
325	文学士	藤部 謙治	教育活動の本質	71	712	11.2.1	1922
326	文学士	世良 寿男	シュリングに於ける自由の哲学の発展（事前）	71	712	11.2.1	1922
327	文学博士	永田 庄太郎	文化価値体系問題（三）	71	712	11.2.1	1922
328	文学士	浦川 源吾	朱子の礼論	72	713	11.3.1	1922
329	文学士	磯川 勇	ゼリオイの社会生理学	72	713	11.3.1	1922
330	文学士	柳崎 茂太郎	精神科学	72	713	11.3.1	1922
331	文学士	髙台 理作	カント哲学に於ける「実践的」の意義	72	713	11.3.1	1922
332	文学博士	西田 幾多郎	社会と個人	73	714	11.4.1	1922
333	文学士	髙台 理作	カント哲学に於ける「実践的」の意義（事前）	73	714	11.4.1	1922
334	文学博士	永田 庄太郎	文化価値体系問題（完結）	73	714	11.4.1	1922
335	文学士	伊藤 敏典	教育活動の権利問題に於けるコソーン長の説	73	714	11.4.1	1922
336	文学士	原 教男	シェリングに於ける自由の哲学の発展（事前）	74	715	11.5.1	1922
337	法学士	榎藤 泰	シュタムラーの法理的総論論について	74	715	11.5.1	1922
338	文学博士	藤田 康彦	プラトニーの美学（事前）	74	715	11.5.1	1922
339	文学士	宮城 信雄	梵網經疏二経の成立年代と其教理とに就いて	74	715	11.5.1	1922
340	文学士	大塚 義一	エルドマン「再生の心理学」に就いて	74	715	11.5.1	1922
341	法学士	榎藤 泰	シュタムラーの法理的総論論について（事前）	75	716	11.6.1	1922
342	文学士	手島 文會	願世外道論	75	716	11.6.1	1922
343	文学士	伊藤 敏典	教育強制の権利問題に関するコソーン長の説（事前）	75	716	11.6.1	1922
344	文学博士	野上 俊夫	抽象的心理学と具体的心理学	75	716	11.6.1	1922
345	文学士	岡野 留次郎	カントに於ける認識客観性問題（事前）	76	717	11.7.1	1922
346	文学士	高橋 俊孝	大寶台に定められたる大学卒の教育史上に於ける意味	76	717	11.7.1	1922
347	文学士	榎藤 泰	シュタムラーの法理的総論論について（完結）	76	717	11.7.1	1922
348	文学士	手島 文會	願世外道論	76	717	11.7.1	1922
349	医学博士	今村 新吉	善論と悪論（完結）	77	718	11.8.1	1922
350	文学士	浦川 源吾	社及社会考（一）	77	718	11.8.1	1922
351	文学士	大塚 義一	責任と教育	77	718	11.8.1	1922
352	(記載なし)	粟田 賢一	メンタ研究	77	718	11.8.1	1922
353	文学士	黒田 源次	風	77	718	11.8.1	1922
354	文学士	岩井 勝二郎	実験的内省に就いて	78	719	11.9.1	1922
355	文学士	浦川 源吾	社及社会考（二）	78	719	11.9.1	1922
356	文学士	手島 文會	願世外道論（事前）	78	719	11.9.1	1922
357	文学博士	西田 幾多郎	行為的主観	78	719	11.9.1	1922
358	文学博士	西田 幾多郎	美と善	78	719	11.9.1	1922
359	文学士	藤田 康彦	絵画の魔術は如何にして可能なるか	79	710	11.10.1	1922
360	文学士	大塚 義一	アッハの近業、概念形成の実験的研究	79	710	11.10.1	1922
361	文学士	手島 文會	願世外道論（完結）	79	710	11.10.1	1922
362	文学博士	藤井 健治郎	好意の倫理的性質	79	710	11.10.1	1922
363	文学士	大塚 義一	アッハの近業、概念形成の実験的研究（事前）	80	711	11.11.1	1922
364	文学士	菅 丹吾	宗教的権威問題に関する考察	80	711	11.11.1	1922
365	文学士	柳崎 泰	社会的概念	80	711	11.11.1	1922
366	文学士	丹羽 正義	歴史に於ける季節関係	80	711	11.11.1	1922
367	文学博士	松本文三郎	什音法楽歌集に就いて	80	711	11.11.1	1922
368	文学博士	西田 幾多郎	ホルツァーンの自伝	80	711	11.11.1	1922
369	文学博士	小西 重直	新徳性の道徳教育	81	712	11.12.1	1922
370	文学博士	藤井 健治郎	財産の倫理的性質（事前）	81	712	11.12.1	1922
371	文学士	伊藤 敏典	倍半バレット教授	81	712	11.12.1	1922
372	文学士	岩井 勝二郎	ハヴリ氏の心理学現狀論	81	712	11.12.1	1922
373	文学士	髙台 理作	実存様式と因果律の問題	81	712	11.12.1	1922
374	文学博士	西前 一郎	規範	82	811	12.1.1	1923
375	文学博士	野上 俊夫	男女共学に就いて	82	811	12.1.1	1923
376	文学博士	波多野 精一	歴史の意義に關してキリスト思想とヘブライ思想	82	811	12.1.1	1923
377	文学士	久松 義一	常識実在論の基礎づけ	82	811	12.1.1	1923
378	文学士	伊藤 敏典	教育方法論	82	811	12.1.1	1923
379	文学士	藤田 康彦	絵画の魔術は如何にして可能なるか（二）	83	812	12.2.1	1923
380	文学士	小島 甚吾	公平深の文化階級論	83	812	12.2.1	1923
381	文学博士	西田 幾多郎	法と道徳	83	812	12.2.1	1923
382	文学士	伊藤 敏典	教育学方法論（完）	83	812	12.2.1	1923
383	文学士	世良 寿男	メディアケスの道徳的価値の二原理	83	812	12.2.1	1923
384	文学士	河瀬 源次	個性概念を通じて見たる「形而上学」の要求	84	813	12.3.1	1923
385	文学博士	朝永 三十郎	デカート哲学に關する二三の考察	84	813	12.3.1	1923

【備考】原文ママ、冊子中では「概念」表記

386	文学博士	柳崎 茂太郎	児童精神力の性的差異	84	813	12.31	1923
387	文学士	西野 留次郎	認識論より見たる相對性理論 (カッシャー)	84	813	12.31	1923
388	文学士	加藤 仁平	山根康行に於ける古学思想の発達	85	814	12.41	1923
389	文学士	久松 真一	神学的方法論に於ける考察	85	814	12.41	1923
390	文学士	務台 理作	主観的普遍に就て	85	814	12.41	1923
391	文学士	三上 眞三郎	物理学の基礎 (グライツド・ヒルベルト)	85	814	12.41	1923
392	文学士	藤田 寿蔵	絵画の優劣は如何にして可能なるか (三)	86	815	12.51	1923
393	文学博士	藤田 寿蔵	道徳的実践	86	815	12.51	1923
394	文学士	三宅 新一	総合的統一について	86	815	12.51	1923
395	文学博士	米田 庄太郎	コンツの社会道徳思想	86	815	12.51	1923
396	(記載なし)	小枝 太一郎	パスカルの「賭」	86	815	12.51	1923
397	文学士	浦川 源吉	支那の学	87	816	12.61	1923
398	文学士	加藤 仁平	山根康行に於ける古学思想の発達 (完)	87	816	12.61	1923
399	文学士	高橋 俊孝	總論的考察について	87	816	12.61	1923
400	文学博士	西 賀一郎	道徳性の実現方法	87	816	12.61	1923
401	文学士	藤田 寿蔵	絵画の優劣は如何にして可能なるか (完)	88	817	12.71	1923
402	(記載なし)	木村 素衛	カントの Naumena と先験的自由	88	817	12.71	1923
403	文学士	三宅 新一	総合的統一について (完)	88	817	12.71	1923
404	文学士	羽根 了謙	仏教と導引理論	89	818	12.81	1923
405	文学博士	藤田 康彦	シルラーが美学上の功績	89	818	12.81	1923
406	文学博士	藤井 健治郎	社会的正義について	89	818	12.81	1923
407	文学博士	羽根 了謙	ケールの弁証法的論法	89	818	12.81	1923
408	文学士	羽根 了謙	仏教と導引理論	90	819	12.91	1923
409	文学士	手島 文吉	無我論	90	819	12.91	1923
410	文学士	福原 英	社会道徳	90	819	12.91	1923
411	文学博士	西田 幾多郎	直接に与へられるもの	90	819	12.91	1923
412	文学士	伊藤 龍典	教育概念の基礎づけ	91	810	12.101	1923
413	文学士	手島 文吉	無我論	91	810	12.101	1923
414	文学博士	西 賀一郎	歴史的と芸術的	91	810	12.101	1923
415	文学士	務台 理作	内部知覚と其対象について	91	810	12.101	1923
416	法学士	恒藤 泰	自律の法理的意義	92	811	12.111	1923
417	文学士	手島 文吉	無我論	92	811	12.111	1923
418	文学博士	藤田 康彦	シルラーが美学上の功績	92	811	12.111	1923
419	文学士・文学士	大賀 寿吉・黒田 正利 共訳	ベネアット・クロネニ デンラの詩	92	811	12.111	1923
420	文学士	長田 新	文化教育の範囲まで (一)	93	812	12.121	1923
421	文学士	手島 文吉	無我論	93	812	12.121	1923
422	文学博士	伊藤 龍典	ヘッフェリン教授の詩とその教育の基礎たる神の論議に就て	93	812	12.121	1923
423	文学士	大橋 善一	リンドゾールスキー「理論心理学論議」	93	812	12.121	1923
424	(記載なし)	ジャツク・アターメル	公算論の諸原理 (一)	93	812	12.121	1923
425	文学士	長田 新	文化教育学の出現まで (完)	94	911	13.11	1924
426	文学士	藤部 謙造	カントとシュライニンゲンベル (承前)	94	911	13.11	1924
427	文学士	世良 寿男	自由の可能性に就て	94	911	13.11	1924
428	文学博士	藤田 康彦	シルラーが美学上の功績 (完)	94	911	13.11	1924
429	文学士	手島 文吉	無我論	95	912	13.21	1924
430	文学士	平田 元吉	カント体系の所謂欠陥問題	95	912	13.21	1924
431	文学士	三上 眞三郎	Hegelの Phänomenologie des Geistes	95	912	13.21	1924
432	文学博士	赤松 智城	回教思想の特色	96	913	13.31	1924
433	文学士	河瀬 憲次	個体と自由	96	913	13.31	1924
434	文学博士	西田 幾多郎	内部知覚について	96	913	13.31	1924
435	文学博士	米田 庄太郎	コンツの社会道徳思想 (二)	96	913	13.31	1924
436	文学博士	赤松 智城	回教思想の特色	97	914	13.41	1924
437	文学博士	藤井 健治郎	人格主義としてのカント倫理	97	914	13.41	1924
438	文学博士	米田 庄太郎	コンツの社会道徳思想 (三)	97	914	13.41	1924
439	文学士	島崎 晋彦	ブレントラーの精神現象の分類	97	914	13.41	1924
440	文学士	宇野 四空	意識概念の分化について	98	915	13.51	1924
441	文学士	黒田 正利	ダンテとトマス・アクワナス	98	915	13.51	1924
442	文学士	高橋 俊孝	各朝の哲学について	98	915	13.51	1924
443	文学博士	朝永 三太郎	カント生誕二百記念会に際して	98	915	13.51	1924
444	文学士	久松 真一	実在に就て	98	915	13.51	1924
445	文学博士	小西 重直	ベネアット・クロネニの宗教と教育	99	916	13.61	1924
446	文学士	菅 田吉	宗教の対象としての歴史的人物	99	916	13.61	1924
447	文学博士	田辺 元	カントの目的論	99	916	13.61	1924
448	文学士	手島 文吉	無我論 (完)	99	916	13.61	1924
449	文学博士	藤井 健治郎	人格主義としてのカント倫理	99	916	13.61	1924
450	文学博士	藤田 寿蔵	現象に於ける永続及び連続の成立	100	917	13.71	1924
451	文学士	大橋 善一	總論的考察について	100	917	13.71	1924
452	文学博士	田辺 元	カントの目的論 (承前)	100	917	13.71	1924
453	文学博士	米田 庄太郎	コンツの社会道徳思想 (四)	100	917	13.71	1924
454	文学士	伊藤 龍典	教育目的としての価値体系	101	918	13.81	1924
455	文学士	高橋 俊孝	武士道の起源及び特質	101	918	13.81	1924
456	文学博士	田辺 元	カントの目的論 (完)	101	918	13.81	1924
457	文学博士	野上 俊夫	具体的人性の研究	101	918	13.81	1924
458	文学士	加藤 仁平	山根康行に於ける士道論的思想の発達	102	919	13.91	1924
459	文学士	高橋 俊孝	武士道の起源及び特質 (二)	102	919	13.91	1924
460	文学博士	西田 幾多郎	内部知覚について (承前)	102	919	13.91	1924
461	文学士	伊藤 龍典	故マックス・フリュシェンゼンクラーの教育学界に於ける功績	102	919	13.91	1924
462	文学士	加藤 仁平	山根康行に於ける士道論的思想の発達	103	910	13.101	1924
463	文学士	高橋 俊孝	武士道の起源及び特質 (三)	103	910	13.101	1924
464	文学士	藤井 寿男	自由の可能性に就て (承前)	103	910	13.101	1924
465	文学博士	西田 幾多郎	内部知覚について	103	910	13.101	1924
466	文学博士	伊藤 龍典	フロストワットの「倫理力」	103	910	13.101	1924
467	文学士	伊藤 龍典	教育目的としての価値体系	104	911	13.111	1924
468	文学士	西谷 啓治	das Reale & das Ideale	104	911	13.111	1924
469	文学士	高橋 俊孝	武士道の起源及び特質	104	911	13.111	1924
470	文学士	高橋 俊孝	武士道の起源及び特質 (完)	105	912	13.121	1924
471	文学士	西谷 啓治	das Reale & das Ideale	105	912	13.121	1924
472	文学博士	藤田 康彦	フロストワットの「倫理力」	105	912	13.121	1924
473	文学士	戸坂 善	カントと現代の科学	105	912	13.121	1924
474	文学博士	小西 重直	勞作教育の原理	106	1011	14.11	1925
475	文学士	戸坂 善	物理的空間の成立まで	106	1011	14.11	1925
476	文学士	務台 理作	時の原始的経験に就て	106	1011	14.11	1925
477	文学士	高坂 正嗣	詩的思想力と狂気 (アデルタイ)	106	1011	14.11	1925
478	文学士	伊藤 龍典	教育方法の原理	107	1012	14.21	1925
479	文学士	永井 素衛	カントに於ける transzendentaler Gegenstand と "affiziert werden" に就て	107	1012	14.21	1925
480	文学博士	戸坂 善	物理的空間の成立	107	1012	14.21	1925
481	文学士	伊藤 龍典	教育方法の原理	108	1013	14.31	1925
482	文学士	務台 理作	時の原始的経験に就て	108	1013	14.31	1925
483	文学士	岩井 徳二郎	形體性論 (フオレン・ユレンフエルズ)	108	1013	14.31	1925
484	文学士	長田 新	現代に於ける教育学の基礎づけ	109	1014	14.41	1925
485	文学士	河瀬 憲次	フネヒラの知識学に関する一考察	109	1014	14.41	1925
486	文学博士	田辺 元	直観知と物自体	109	1014	14.41	1925
487	文学士	藤田 寿蔵	ミケランジェロ	110	1015	14.51	1925
488	文学士	長田 新	現代に於ける教育学の基礎づけ (二)	110	1015	14.51	1925
489	文学士	河瀬 憲次	フネヒラの知識学に関する一考察	110	1015	14.51	1925
490	(記載なし)	ロバート・シンゲンゲル	理念に就いての歴史的と非歴史的	110	1015	14.51	1925
491	文学士	高坂 正嗣	歴史的時期の問題 (ジノメル)	110	1015	14.51	1925
492	文学士	加藤 仁平	晋家道論とその唯識論者説	111	1016	14.61	1925
493	文学士	渡 徳二郎	社会学の一元論的方針とモナド論的方針	111	1016	14.61	1925
494	(記載なし)	ロバート・シンゲンゲル	理念に就いての歴史的と非歴史的	111	1016	14.61	1925
495	文学士	伊藤 龍典	「教育方法の原理」	111	1016	14.61	1925
496	文学士	大橋 善一	道徳性論に就て	111	1016	14.61	1925
497	文学士	菅 田吉	キープの宗教発生論	111	1016	14.61	1925
498	文学士	長田 新	現代に於ける教育学の基礎づけ (三)	112	1017	14.71	1925
499	文学士	加藤 仁平	晋家道論とその唯識論者説	112	1017	14.71	1925
500	文学博士	田辺 元	直観知と物自体 (承前)	112	1017	14.71	1925
501	文学博士	西 賀一郎	一徳に就て	112	1017	14.71	1925
502	(記載なし)	ロバート・シンゲンゲル	理念に就いての歴史的と非歴史的	112	1017	14.71	1925
503	文学士	宇野 四空	祝祭の発生に関する問題	113	1018	14.81	1925
504	文学士	浦川 源吉	古代支那人崇拜の神、特に「玉祀」に就て	113	1018	14.81	1925
505	文学士	加藤 仁平	晋家道論とその唯識論者説	113	1018	14.81	1925
506	文学士	渡 徳二郎	社会学の一元論的方針とモナド論的方針	113	1018	14.81	1925
507	文学士	羽根 了謙	印度のヒルローン	113	1018	14.81	1925
508	文学士	五十嵐 清	フーアーカントの社会学概念に於ける二三の問題	114	1019	14.91	1925
509	文学博士	宇野 四空	祝祭の発生に関する問題	114	1019	14.91	1925
510	文学博士	高橋 俊孝	我が国古代の道徳と宗教 (一)	114	1019	14.91	1925
511	文学士	手島 文吉	無我論論議	114	1019	14.91	1925
512	文学士	五十嵐 清	フーアーカントの社会学概念に於ける二三の問題	115	1010	14.101	1925
513	文学士	加藤 仁平	晋家道論とその唯識論者説	115	1010	14.101	1925
514	文学士	高橋 俊孝	我が国古代の道徳と宗教 (二)	115	1010	14.101	1925
515	文学博士	西田 幾多郎	働くもの	115	1010	14.101	1925

附録に「京都哲学学会員名簿」(13.11.1期) 有り

「大正十四年度哲学科卒業論文題目」 有り

西野留次郎 訳

906	文学士	野田 又夫	デカルトの形而上学 (前編)	239	212	11.21	1936
907	文学士	向田 永静	浄土教思想の中観哲學的解明	239	212	11.21	1936
908	文学士	榎俊雄	世界観の社会学	240	213	11.31	1936
909	文学士	近藤 洋池	パラドクサス再論	240	213	11.31	1936
910	文学士	山本 清幸	地獄的実在論への途	240	213	11.31	1936
911	文学士	臼井 二尚	地獄的実在論としての放散と郷土	241	214	11.41	1936
912	文学士	藤井 義夫	アリストテレスに於ける認識論的思想の発展	241	214	11.41	1936
913	文学士	松下 武雄	ジェンツの藝術哲学	241	214	11.41	1936
914	文学士	臼井 二尚	地獄的実在論としての放散と郷土 (前編)	242	215	11.51	1936
915	文学士	松尾 義海	正理学論に於ける量論—現象と比量—	242	215	11.51	1936
916	文学士	高山 晋男	性と血—原本人間及び原本人間の社会的実在的諸要素—	243	216	11.61	1936
917	文学士	榎俊雄	世界観の社会学 (前編)	243	216	11.61	1936
918	文学士	ベルナイス 三田 博雄 訳	超数学の本質に就て	243	216	11.61	1936
919	文学士	高山 晋男	性と血 (前編)—原本人間及び原本人間の社会的実在的諸要素—	244	217	11.71	1936
920	文学士	北井 虎賀壽	存在の論理的性格と判断の存在的性格	244	217	11.71	1936
921	文学士	上田 大駒	機心の関係に就いて	244	217	11.71	1936
922	文学士	安田 行雄	「理念型」構成の論理	245	218	11.81	1936
923	文学士	榎俊雄	世界観の社会学 (前編)	245	218	11.81	1936
924	文学士	上田 大駒	機心の関係に就いて (前編)	245	218	11.81	1936
925	文学士	北井 虎賀壽	知覚論—一部 アシタルト心理学	246	219	11.91	1936
926	文学士	松村 友三	アウダス・アリス『神の国』の歴史観	246	219	11.91	1936
927	文学士	山本 哲次	歴史に於ける弁证的・辯論的	246	219	11.91	1936
928	文学博士	田辺 元	論理の社会存在論的構造	247	2110	11.101	1936
929	文学士	山本 哲次	歴史に於ける弁证的・辯論的 (前編)	247	2110	11.101	1936
930	文学士	近藤 洋池 訳	ジャン・ルカジェヴィツ『多量命題計算学に就て』	247	2110	11.101	1936
931	文学博士	田辺 元	論理の社会存在論的構造 (前編)	248	2111	11.111	1936
932	文学士	高坂 正樹	歴史の基体	248	2111	11.111	1936
933	文学士	高山 晋男	性と血 (前編)—原本人間及び原本人間の社会的実在的諸要素—	248	2111	11.111	1936
934	文学博士	田辺 元	論理の社会存在論的構造 (前編)	249	2112	11.121	1936
935	文学士	山本 哲次	歴史に於ける弁证的・辯論的	249	2112	11.121	1936
936	文学士	西谷 啓治	宗教・歴史・文化	250	221	12.11	1937
937	文学士	北井 虎賀壽	知覚論 第一節 アシタルト心理学	250	221	12.11	1937
938	文学士	松尾 義海	空義より三性説へ	250	221	12.11	1937
939	文学士	河本 敬夫	芸術的表現の意義	251	222	12.21	1937
940	文学士	重寶 憲策	標記形而上学序	251	222	12.21	1937
941	文学士	アインシュタイン其他 武谷 三男 訳	量子力学に於ける観測に就て	251	222	12.21	1937
942	文学士		新刊紹介、卒業論文題目等	251	222	12.21	1937
943	文学博士	西田 幾多郎	実践と対象認識—歴史的世界に於ての認識の立場—	252	223	12.31	1937
944	文学士	島 芳夫	感情の存在論的構造	252	223	12.31	1937
945	文学士	ジャン・ルカジェヴィツ 三田 博雄 訳	命題論理の歴史	252	223	12.31	1937
946	文学博士	西田 幾多郎	実践と対象認識 (前編)—歴史的世界に於ての認識の立場—	253	224	12.41	1937
947	文学士	大西 友太	カントの先天総合判断の最高原則について	253	224	12.41	1937
948	文学士	島 芳夫	感情の存在論的構造	253	224	12.41	1937
949	文学士	グオルグ・ラッソン 平下 欣一 訳	十字架と蓋章	253	224	12.41	1937
950	文学博士	西田 幾多郎	実践と対象認識 (前編)—歴史的世界に於ての認識の立場—	254	225	12.51	1937
951	文学士	内田 文雄	カントの歴史観	254	225	12.51	1937
952	文学博士	オットー・トェブリップ 長 澤 信壽 訳	プラトーンに於ける数学と形相論との関係	254	225	12.51	1937
953	文学博士	植田 寿藏	美の深さ	255	226	12.61	1937
954	文学士	大西 友太	カントの先天総合判断の最高原則について (前編)	255	226	12.61	1937
955	文学士	片山 正彦	宗教的自覚	255	226	12.61	1937
956	文学士	近藤 洋池	自然数論の無矛盾性証明—G・ゲンツェンの業績—	255	226	12.61	1937
957	文学士	田中 熊	マクス・シェラーの政策論と政治論	256	227	12.71	1937
958	文学士	藤井 義夫	アリストテレスに於ける認識論的思想の発展 (前編)	256	227	12.71	1937
959	文学士	近藤 洋池	自然数論の無矛盾性証明 (前編)—G・ゲンツェンの業績—	256	227	12.71	1937
960	文学博士	植田 寿藏	美の深さ (前編)	257	228	12.81	1937
961	文学士	岩本 裕	原級インド・アールヤ人の思想とアタルヴァ・ヴェーダ	257	228	12.81	1937
962	文学士	大西 友太	カントの先天総合判断の最高原則について (前編)	257	228	12.81	1937
963	文学士	湯川 秀樹	量子論の確率論	257	228	12.81	1937
964	文学士	ニールス・ボーア 武谷 三男 訳	原子論に於ける因果律	257	228	12.81	1937
965	文学博士	植田 寿藏	美の深さ (前編)	258	229	12.91	1937
966	文学士	片山 正彦	宗教的自覚 (前編)	258	229	12.91	1937
967	文学士	ルイ・ド・ブローイ 眞方 敬道 訳	物理的世界内に於ける個体性と交互作用	258	229	12.91	1937
968	文学博士	植田 寿藏	美の深さ (前編)	259	2210	12.101	1937
969	文学博士	田辺 元	種の論理の意味を明にす	259	2210	12.101	1937
970	文学博士	オットー・トェブリップ 長 澤 信壽 訳	プラトーンに於ける数学と形相論との関係 (前編)	259	2210	12.101	1937
971	文学士	酒取 久敏	第九回万国哲学界の印象	259	2210	12.101	1937
972	文学博士	田辺 元	種の論理の意味を明にす (前編)	260	2211	12.111	1937
973	文学士	高橋 亨	アリストテレスに於けるousiaとしてのpsyche	260	2211	12.111	1937
974	文学士	横山 義	人格の問題—ベルグソンに於ける二つの自我に就て—	260	2211	12.111	1937
975	文学士	近藤 洋池	相対性理論をめぐる認識論的諸問題	260	2211	12.111	1937
976	文学博士	田辺 元	種の論理の意味を明にす (前編)	261	2212	12.121	1937
977	文学士	藤井 義夫	アリストテレスに於ける認識論的思想の発展 (前編)—「アリストテレスの認識論」研究への一寄与—	261	2212	12.121	1937
978	文学士	近藤 洋池	相対性理論をめぐる認識論的諸問題 (前編)	261	2212	12.121	1937
979	文学士	三宅 剛一	デカルトに於ける延長	262	231	13.11	1938
980	文学士	柳田 謙十郎	主体の哲学と倫理の問題 (上)	262	231	13.11	1938
981	文学士	近藤 洋池	相対性理論をめぐる認識論的諸問題 (前編)	262	231	13.11	1938
982	文学士	片山 正彦	宗教的自覚 (前編)	263	232	13.21	1938
983	文学士	向田 永静	現象存在の根拠としての空	263	232	13.21	1938
984	文学士	柳田 謙十郎	主体の哲学と倫理の問題 (中)	263	232	13.21	1938
985	文学士	島 芳夫	行為と倫理	264	233	13.31	1938
986	文学士	柳田 謙十郎	主体の哲学と倫理の問題 (下)	264	233	13.31	1938
987	文学士	近藤 洋池	相対性理論をめぐる認識論的諸問題 (前編)	264	233	13.31	1938
988	文学士	片山 正彦	宗教的自覚 (前編)	265	234	13.41	1938
989	文学士	竹下 直之	歴史と自由	265	234	13.41	1938
990	文学士	近藤 洋池	相対性理論をめぐる認識論的諸問題 (前編)	265	234	13.41	1938
991	文学士	島 芳夫	行為と倫理 (前編)	266	235	13.51	1938
992	文学士	淡野 安太郎	社会哲学への試図	266	235	13.51	1938
993	文学士	保田 清	證明思想の論理学的考察	266	235	13.51	1938
994	文学士	大西 友太	カントの先天総合判断の最高原則について (前編)	267	236	13.61	1938
995	文学士	河本 敬夫	観ることに於ける言語	267	236	13.61	1938
996	文学士	松尾 義海	眞智と解脫—Nyayatra-bhasyaを中心として—	267	236	13.61	1938
997	文学士	島 芳夫	行為と倫理 (前編)	268	237	13.71	1938
998	文学士	井島 勉	批評の芸術学的意味	268	237	13.71	1938
999	文学士	近藤 洋池	相対性理論をめぐる認識論的諸問題 (前編)	268	237	13.71	1938
1000	文学士	平下 欣一	概念と自由	269	238	13.81	1938
1001	文学士	井島 勉	批評の芸術学的意味 (前編)	269	238	13.81	1938
1002	文学博士	上田 大駒	有機の關係に就いて	269	238	13.81	1938
1003	文学士	高山 晋男	形式論理の機能的振興に就いて	270	239	13.91	1938
1004	文学士	藤井 義夫	アリストテレスに於ける認識論的思想の発展 (前編)	270	239	13.91	1938
1005	文学士	長澤 信壽	二種の「アウダス」	270	239	13.91	1938
1006	文学士	柳田 謙十郎	高山晋男長の「形相的人間学」について	270	239	13.91	1938
1007	文学博士	田辺 元	永平正理論の哲学	271	2310	13.101	1938
1008	文学士	島 芳夫	行為と倫理	271	2310	13.101	1938
1009	文学士	下村 実太郎	数学の形而上学的基礎について	271	2310	13.101	1938
1010	文学士	高山 晋男	形式論理の機能的振興に就いて (前編)	272	2311	13.111	1938
1011	文学士	田中 熊知太郎	プロットアゴス (上)	272	2311	13.111	1938
1012	文学士	山本 哲次	実践的の意味	272	2311	13.111	1938
1013	文学士	島 芳夫	行為と倫理 (前編)	273	2312	13.121	1938
1014	文学士	田中 熊	マクス・シェラーの政策論と政治論 (前編)	273	2312	13.121	1938
1015	文学士	藤井 義夫	アリストテレスに於ける認識論的思想の発展 (前編)	273	2312	13.121	1938
1016	文学士	下村 実太郎	普遍学としての数学の成立	274	241	14.11	1939
1017	文学士	土井 虎賀壽	世界像のトポロギイ試論	274	241	14.11	1939
1018	文学士	山田 次郎	疑へないもの	274	241	14.11	1939
1019	文学博士	九鬼 寛造	驚きの情と偶然性	275	242	14.21	1939
1020	文学士	大西 友太	カントの先天総合判断の最高原則について (前編)	275	242	14.21	1939
1021	文学士	山本 哲次	実践的の意味 (前編)	275	242	14.21	1939
1022	文学博士	植田 寿藏	ある疑いの現象論	276	243	14.31	1939

1144	-	北森 嘉藏	福音の三一論的構造	312	2713	17.3.1	1942	
1145	-	澤田 久敏	独創性に就いて	312	2713	17.3.1	1942	
1146	-	前田 博	ヘーゲルと国家的教育の理念(完)	312	2713	17.3.1	1942	
1147	-	下野 勇吉	高山樗牛『文化類型学研究』跋後	312	2713	17.3.1	1942	
1148	-	山内 得立	都市国家の成立	313	2714	17.4.1	1942	
1149	-	武部 一雄	良心と善	313	2714	17.4.1	1942	
1150	-	矢内原 伊作	物性の論理—ヘーゲルの精神現象学に於ける絶対観の成立に就いて—	313	2714	17.4.1	1942	
1151	-	植田 寿雄	山水園における距離性—及びその問題—	314	2715	17.5.1	1942	
1152	-	三井 浩	プラトーン哲学資料編(中)	314	2715	17.5.1	1942	
1153	-	松尾 義雄	印度論理学に於ける三種の比喩の変遷	314	2715	17.5.1	1942	
1154	-	青木 教雄	念仏論序説—選訳集を中心として—	315	2716	17.6.1	1942	
1155	-	三井 浩	プラトーン哲学資料編(下)	315	2716	17.6.1	1942	
1156	-	色井 秀謙	印度浄土思想の一瞥論—	315	2716	17.6.1	1942	
1157	-	島 芳夫	道徳の秩序と経済の秩序	316	2717	17.7.1	1942	
1158	-	青木 教雄	念仏論序説(承前)—選訳集を中心として—	316	2717	17.7.1	1942	
1159	-	竹内 良知	スピノザ論の論理	316	2717	17.7.1	1942	
1160	-	三井 浩	プラトーン哲学資料編補遺	316	2717	17.7.1	1942	
1161	-	山内 得立	都市国家の成立(承前)	317	2718	17.8.1	1942	
1162	-	青木 教雄	念仏論序説(完)—選訳集を中心として—	317	2718	17.8.1	1942	
1163	-	色井 秀謙	印度浄土思想の一瞥論(承前)—陀止本願の発祥より考察したる—	317	2718	17.8.1	1942	
1164	-	島 芳夫	道徳の秩序と経済の秩序(完)	318	2719	17.9.1	1942	
1165	-	色井 秀謙	印度浄土思想の一瞥論(完)—陀止本願の発祥より考察したる—	318	2719	17.9.1	1942	
1166	-	小野 隆洋	小乗的自覚 風土学的試論	318	2719	17.9.1	1942	
1167	-	青木 教雄	民間神話の神話—機能主義の方法—	319	2710	17.10.1	1942	
1168	-	西村 嘉彦	芸術哲学の基礎問題—アウラ研究への覚書—	319	2710	17.10.1	1942	
1169	-	澤田 久敏	アウラのCognita, ergo sumの哲学史的考察	319	2710	17.10.1	1942	
1170	-	山内 得立	都市国家の成立(完)	320	2711	17.11.1	1942	
1171	-	青木 教雄	民間神話の神話(完)—機能主義の方法—	320	2711	17.11.1	1942	
1172	-	安藤 孝行	アリストテレスに於ける靈魂の構造	320	2711	17.11.1	1942	
1173	-	松村 克己	イエスの「神の国」	321	2712	17.12.1	1942	
1174	-	安藤 孝行	アリストテレスに於ける靈魂の構造(承前)	321	2712	17.12.1	1942	
1175	-	西村 嘉彦	芸術哲学の基礎問題(完)—アウラ研究への覚書—	321	2712	17.12.1	1942	
1176	-	高坂 正剛	歴史の形而上学のための一章	322	2811	18.1.1	1943	
1177	-	下野 勇吉	人間の本質的諸特性とその発展	322	2811	18.1.1	1943	
1178	-	小川 長成	美的自律性の先驗論的考察—カント美学研究—	322	2811	18.1.1	1943	
1179	-	伊達 信郎	野崎廣義著『悔悟としての哲学』	322	2811	18.1.1	1943	
1180	-	松村 克己	イエスの「神の国」(承前)	323	2812	18.2.1	1943	
1181	-	下野 勇吉	人間の本質的諸特性とその発展	323	2812	18.2.1	1943	
1182	-	植田 寿雄	「たけ」の解釈—規範における—	324	2813	18.3.1	1943	
1183	-	安藤 孝行	アリストテレスに於ける靈魂の構造(承前)	324	2813	18.3.1	1943	
1184	-	黒田 一郎	ニイチュ哲学の方法序説—内容を求むる心—	324	2813	18.3.1	1943	
1185	-	羽溪 了謙	因果律の包摂	325	2814	18.4.1	1943	
1186	-	島 芳夫	論理と全体的理念	325	2814	18.4.1	1943	
1187	-	黒田 一郎	誠実と戯れ—ニイチュ哲学の方法序説その二—	325	2814	18.4.1	1943	
1188	-	島 芳夫	論理と全体的理念(完)	326	2815	18.5.1	1943	
1189	-	井島 勉	美的理念と芸術史理念	326	2815	18.5.1	1943	
1190	-	安藤 孝行	アリストテレスに於ける靈魂の構造(完)	326	2815	18.5.1	1943	
1191	-	渋谷 安太郎	社会の成立	327	2816	18.6.1	1943	
1192	-	井島 勉	美的理念と芸術史理念(下)	327	2816	18.6.1	1943	
1193	-	河合 勝明	本體の哲学—特に天台に就て—	327	2816	18.6.1	1943	
1194	-	木村 善衛	国民文化に就て	328	2817	18.7.1	1943	
1195	-	白井 二尚	民族の諸規定	328	2817	18.7.1	1943	
1196	-	河合 勝明	本體の哲学—特に天台に就て—	328	2817	18.7.1	1943	
1197	-	木村 善衛	国民文化に就て(完)	329	2818	18.8.1	1943	
1198	-	河合 勝明	本體の哲学—特に天台に就て—	329	2818	18.8.1	1943	
1199	-	釘宮 武雄	鈴木大拙著『浄土承思想論』	329	2818	18.8.1	1943	
1200	-	島 芳夫	歴史的世界の論理	330	2819	18.9.1	1943	
1201	-	武内 義範	教行信証に於ける教の概念	330	2819	18.9.1	1943	
1202	-	大島 康正	神人と人神	330	2819	18.9.1	1943	
1203	-	下野 勇吉	身体性の構造	331	2810	18.10.1	1943	
1204	-	大島 康正	神人と人神(承前)	331	2810	18.10.1	1943	
1205	-	河合 勝明	本體の哲学(完)—特に天台に就て—	331	2810	18.10.1	1943	
1206	-	島 芳夫	歴史的世界の論理(完)	332	2811	18.11.1	1943	
1207	-	上田 泰治	現象の論理	332	2811	18.11.1	1943	
1208	-	佐々木 秀順	三神(ayakakihana)の思想—開始に教理解の試論—	332	2811	18.11.1	1943	
1209	-	松村 克己	神人神定	333	2812	18.12.1	1943	
1210	-	岸邊 豊	道徳的目的論	333	2812	18.12.1	1943	
1211	-	上田 泰治	ヘーゲル哲学の根本問題に就いての省察—現象の論理 第二部—	333	2812	18.12.1	1943	
1212	-	西谷 啓治	神聖主義の問題—信仰と理性—	334	2911	19.1.1	1944	
1213	-	佐藤 幸治	気の人間技術学	334	2911	19.1.1	1944	
1214	-	町澤 重治	サムケの構想	334	2911	19.1.1	1944	
1215	-	木村 善衛	国家と世界—一つの断片—	335	2912	19.2.1	1944	
1216	-	武内 義範	教行信証に於ける教の概念(承前)	335	2912	19.2.1	1944	
1217	-	木村 善衛	国家と世界(完)—一つの断片—	336	2913	19.3.1	1944	
1218	-	武内 義範	教行信証に於ける教の概念(未完)	336	2913	19.3.1	1944	
1219	-	上田 泰治	ヘーゲル哲学の根本問題に就いての省察(承前)—現象の論理 第二部—	336	2913	19.3.1	1944	
1220	-	鹿澤 俊郎	支那に於ける文芸復興と経学	337	2914	19.4.1	1944	
1221	-	小川 長成	美的自律性の芸術史的展開	337	2914	19.4.1	1944	
1222	-	上田 泰治	ヘーゲル哲学の根本問題に就いての省察(完)—現象の論理 第二部—	337	2914	19.4.1	1944	
1223	-	田中 龍	現象存在と我々の双観	338	2915	19.5.1	1944	
1224	-	小川 長成	美的自律性の芸術史的展開 後編—美的自律性の自覚	338	2915	19.5.1	1944	
1225	-	田中 龍	現象存在と我々の双観(完)	339	2916	19.6.1	1944	
1226	-	澤田 久敏	身体(上)—フランドル哲学史の一面—	339	2916	19.6.1	1944	
1227	-	植田 寿雄	東洋の絵画における「縁と密と二体」の解釈	340	2917	19.7.1	1944	
1228	-	鈴木 宗忠	無着の唯識哲学に於ける中心思想	340	2917	19.7.1	1944	
1229	-	西田 幾多郎	哲学論文集第四補遺	241-342	2918-9	19.9.1	1944	合併号
1230	-	田中 孝雄	素戔武土道行字見	241-342	2918-9	19.9.1	1944	合併号
1231	-	澤田 久敏	身体(下)—フランドル哲学史の一面—	241-342	2918-9	19.9.1	1944	合併号
1232	-	植田 寿雄	東洋の絵画における「縁と密と二体」の解釈(承前)	243-344	2910-11	20.9.1	1945	合併号
1233	-	鈴木 宗忠	無着の唯識哲学に於ける中心思想(承前)	243-344	2910-11	20.9.1	1945	合併号
1234	-	大島 康正	時代区分の超時代的根拠	243-344	2910-11	20.9.1	1945	
1235	-	西田 幾多郎	数学の哲学的基礎付け	345	29112	20.9.10	1945	
1236	-	鈴木 宗忠	無着の唯識哲学に於ける(承前)	345	29112	20.9.10	1945	